

これまでに三重大学という学舎で育った卒業生は約79,721名、社会の様々な分野で活躍中です。



お忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。

★公務員として地域医療を事務から支える

三重県庁(三重県立一志病院 運営調整部 総務課)

File. 34

川北 佳雅

Kawagita, Yoshimasa

三重県松阪市生まれ。2008年人文学部社会科学科(現・法律経済学科)を卒業。同年、パナソニックエコシステムズ株式会社・パナソニック電工(現・パナソニック)本社勤務を経て、2013年三重県庁へ入庁。雇用経済部、県土整備部等を経て、2018年から現職。在職中(2019年)、放送大学大学院にて修士号取得。



県立一志病院前にて(三重県津市)

MESSAGE

★学生へのメッセージ★
社会に出ると「心の余裕」が大切になります。学生のうちに、興味の幅を広げ、色々なジャンルの本を読むことをおすすめします。



プライベートでは三重発祥の「ピンポン野球」の普及を三重大の後輩と進めているんだって!

ゼミに自主ゼミに留学に、全力の学生時代

大学の入学式は、高校時代の様々な失敗経験の悔しさを胸に迎えました。しかし、すぐに恩師である野崎哲哉先生に出会い、ゼミ(金融論)や自主ゼミ*の仲間と共に学ぶ中で、皆で知識や情報を集め、発表や議論を行うことの楽しさにハマっていきました。当時の仲間は今でも大切にしています。

就職終了後には卒業論文執筆のため、米国留学を経験しました。米国では出会う人々が口を揃えて地域の誇りを語るのですが、私はまだまだ日本や地元のことを知らないのだと気が付き、相対的な視点を持つようになりました。留学中はなかなか馴染めなかったり、大量の課題を抱えたりと苦労した部分も多いですが、それらを突破することで主体的な行動力が身についたと思います。

*複数の先生の指導の下、社会問題から宇宙や恐竜についてなど幅広いテーマについて発表や議論を行うゼミのこと

三重県職員として一志病院へ

最初に就職したのは愛知県民の民間企業でした。東京勤務もしましたが、外に出ることで三重の魅力や再認識したことで、震災をきっかけに地元に戻って県全体に携われる仕事がしたいと思ったことから三重県庁に入庁しました。現在配属されている県立一志病院は、全国の医療過疎解決のモデルになることを目指しています。一志病院は、なくてはならない地域のセーフティネットです。「なぜ儲からない地域医療をやり続ける必要があるのか」などと、一面的な見方で思考停止せず、民間企業的なノウハウを活用しながら、行政ならではのサービスを人々に提供し、地域社会を支えているというやりがいを実感できているのは、学生時代に経済学や社会問題を沢山学んだお陰と言えるでしょう。

経験はすべて役に立つ!

一志病院の職員は、医療教育や研究にも高い志を持って取り組んでいます。私も働きながら修士号を取得したので、今後は研究面でも病院に貢献したいと考えていて、学生時代に高めた知的好奇心が活かされていると感じます。いろいろな物事に興味を持ち、課題を見つけ、仮説を立て、解決に向けて皆の協力を得るという仕事のやり方にも、ゼミや留学の経験が影響を与えています。民間企業に勤めた経験が生きる場面も少なくありません。自分がしてきた経験は、すべてどこかで役に立ちます。三重県庁にもいろいろな経歴の職員がいますから、「この道しかない」と決めつけてしまうのではなく、柔軟に物事を捉える力を学生のみならず自分自身にも身につけてほしいと思います。

★美術の楽しさ、絵を描くことを好きになってもらうために

File. 35

山口 智優

Yamaguchi, Chihiro

三重県名張市生まれ。2013年三重大学教育学部卒業、三重県内の高等学校教諭を経て、2017年より現職。



美術をたくさん学んだ学生時代

私は教育学部の美術教育コースに在籍していたのですが、実習や子どもたちと関わる機会がたくさんあり、絵を描くことを教えるチャンスに恵まれていました。学生時代に学んだデッサンなどの実技や美術史の知識技能は今とても役に立っています。

またデザインを専攻しパソコンでポスターやパッケージを作りました。そこで色の配置について理論的に学べたことは油絵を描く際にも役に立ちました。卒業制作では、横6m、縦2mもあるとても大きな油絵に取り組みました。自分の身長よりも高く1番上を描くときは脚立に乗って描いたことを覚えています。はじめは白いキャンバスにとっても迫力があってどのように描こうか迷いました。その作品は今でも取り組んだ中で最も大きい作品となりました。



三重県立名張高等学校 美術室にて(三重県名張市)

美術は日常の中にあるもの

絵にあまり興味がない生徒も多いので、そのような生徒に少しでも絵を好きになってもらえるよう工夫しながら取り組んでいます。生徒の生活とかけ離れている作品ばかり見せると自分とは程遠い世界だと感じてしまうので、生活に身近なスプーンやフォークを木で彫って作るなど生活に少しでも関わるところから美術に関われば良いと思っています。美術は特別なものではなく日常にあることに気づき、美術に対する意識が少しでも変わると毎日により楽しくなることを伝えたくて毎日授業をしています。

絵を描くことの魅力

生徒は色々なアイデアをもっていたり私自身が思いつかない発想の絵を描いたりするので、その絵を見たり、生徒と一緒に絵が描けることがとても楽しくて面白いです。絵を描くことは仕事の一部なのですが、仕事という風には意識はしていなくて、自分の好きなことを仕事にしているという感じです。

私自身は絵を描くことがもちろん好きです。人や風景の絵を描く時に、描くものは目に見えるものを描くけれど、目に見えない思いや気持ちも現れるように描きたいと思っています。特に人を描くことが好きで、私がおの人に対して思っているイメージや思いが絵に表れたらいいなと思いながら描いています。

好きな言葉は“生きているだけで100点満点”



教育実習で行き詰った時に、みんながこの言葉を唱えて頑張っていたんだって!

MESSAGE

★学生へのメッセージ★
私自身学生時代に様々な経験をしたことで、それが今に繋がりに役に立っていることが多いので、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。

壁にぶち当たっても人生やってみないとわからない

File. 36

国立感染症研究所感染症疫学センター 第一室 主任研究官



学生時代は基礎医学に興味津々

生まれも育ちも三重県で、医師である父親も三重大学の卒業生だったので、大学といえば三重大学という家庭環境でした。高校生の時、数学・物理が苦手だったこともあり生物を選択し勉強しましたが、特に免疫学に興味を持ち、この分野の研究をしたいと漠然と思っていました。高校2年の夏に、医学系の学会に連れて行ってもらったことがきっかけで医学の道へ進むことを決め、数学の壁にぶち当たっていましたが何とか克服し、入試制度が分離分割方式*になったことも幸いし、無事三重大学医学部への入学を果たしました。

基礎医学に興味があったこともあり、学生時代は病理学や生体防御医学などの基礎医学系の研究室に入りびたりで、基礎医学系の先生方に、特に保富康宏先生には厳しく指導していただきながらもかわいがっていただき、

感染症対応に興味のある人は、ぜひ連絡をください!



母校の三重大学医学部にて (三重県津市)

神谷元

Kamiya, Hajime

三重県熊野市生まれ。1999年3月三重大学医学部卒業、聖路加国際病院小児科での研修の後、海外留学を経て2008年8月国立感染症研究所に採用、2014年8月から現職。

MESSAGE

学生へのメッセージ

総合大学で各学部が一つのキャンパスにあることを生かして、いろんな人と出会ってほしい。5年後10年後を見据えて三重大学でしかできないことを見つけてほしいです。

海外留学と今の仕事との出会い

大学卒業後は、東京の病院の小児科で研修医として勤務しました。

小児科では悪性腫瘍などの重篤な病気を中心に治療していました。医学の進歩で、病気は治るのですが、免疫力の低下により、感染症、特にワクチンで予防できる水ぼうそうやはしかにかかってしまい重篤な状況になる患者さんを何人も経験しました。研修の4年が終わったところで、アメリカではワクチンを上手に活用し、感染症の流行を抑えている、という話を聞き、University of California San Diego (UCSD)へ2年間留学しました。父もワクチンの研究をしていたので、アメリカの現場を見るために大学に所属しながら保健所に派遣してもらいました。

アメリカでは、地方の保健所でも感染症に関するデータを収集してそのデータに基づいて予防接種政策を決めていました。アメリカと日本におけるワクチンの使い方の違いを目の当たりにし、その時に疫学という分野の重要性を知り、アトランタにあるEmory University Rollins School of Public Healthの公衆衛生大学院にて疫学を学びました。

日本でこれを実践・研究していくには国立感染研究所であると思いつきました。しかし、働き始めると、教科書で学んだことと実践においてはギャップがあると感じ、公衆衛生、特にアウトブレイク(患者の集団発生)などで対応ができる指導者になるための実践的スキルを身につけるためにCDC(アメリカ疾病対策予防センター)でEIS(Epidemic Intelligence Service)という2年間の研修を受けるため自ら志願し、再度海外へ留学しました。日本人では先駆けだと自負しています(笑)。

感染症の予防のために

現在の仕事は、二度の留学経験を活かし、主に感染症の発生状況等のデータを全国から収集し、整理・分析することにより感染症対策や予防接種政策への提言・提案をすることと、はしかなどのアウトブレイクに対して事例が発生した原因を追究し、次に同じことが発生しないように予防策を関係者と一緒を考え、国の機関として情報を蓄積し、医療者、行政関係者の方々や情報を共有することなどです。その他、国際協力としてエボラウイルス病のアウトブレイクが発生した際にはアウトブレイク対応実践のためにアフリカへ行ったり、またそのような対応ができる人材育成を行ったりしています。

*個別試験(第2次試験)で、前期日程と後期日程に分離し、募集人員を分割する方式のこと

専門看護師として医療と看護の質向上にトライ!

File. 37

奈良県立医科大学附属病院 看護実践・キャリア支援センター 急性・重症患者看護専門看護師 特定看護師(7区分16行為) KCCC (Kansai Critical Care Community) プロジェクトリーダー



看護師としてのやりがい

看護学科を受験する際、他学部の学生とも交流が持てることに魅力を感じて総合大学である三重大学を受験しました。学生時代は医学系ラグビー部に所属しており、チーム医療が求められる医療現場においてチーム一丸となって戦うラグビー部での経験が活かしています。

看護師としてやりがいを感じるときは、患者さんやご家族に感謝される時です。その一方で、「看護師の役割ってなんだろう?」と疑問を持ち、自分の中で答えが見つからない時期がありました。そんな時、看護系大学院博士課程を修了した先輩看護師と出会い、看護学という学問に深みを感じたことで、臨床実践と研究を学ぶために大学院進学を決意しました。



ラグビー部では、東海医歯薬大会で優勝したんだ!

「相手のことに関心を寄せる」という看護理念を大切にしているよ



奈良県立医科大学附属病院にて (奈良県橿原市)

辻本雄大

Tsujimoto, Takahiro

奈良県生まれ。2005年三重大学医学部看護学科卒業。三重病院、国立循環器病研究センター、大阪府立大学看護学研究科博士前期課程を経て2011年から現職。

MESSAGE

学生へのメッセージ

自分を客観視し、何をしている時が楽しいのか、何が好きなのかを知ることが、働くうえでも生活のうえでも大切になります。その気持ちを少しでも大きくしてください。

その人らしく生きぬくことを支援する

大学院修了後、専門看護師*1の認定を取得しました。医療現場を客観視し、改善すべきことがあれば解決に向かわせることが専門看護師には求められます。

今年度から、院内外の看護師を対象にした特定行為*2研修の運営を担当しています。特定行為は大学病院などの高度医療だけでなく、地域医療を支える制度として期待されています。その一方で、まだ新しい制度のため、研修を修了した看護師がどのように活躍するのか、そして、自分自身もどのような形で活躍できるかを模索している段階です。そのため、現場を離れた今も毎朝カンファレンス*3に参加し、課題の抽出と現場感覚を失わないように心がけています。また、院内だけでなく、他の医療機関や他分野の方々との相互交流を通じて学びを深めていくコミュニティ(KCCC)*4を立ち上げ、より良い医療支援について様々なプロジェクトを行っています。

今後は、患者さんやご家族にとってより良い医療を自分で選択し、その人らしく生きぬくことができるように特定行為の活用や、療養環境を改善していけるよう院内外の活動を頑張ります。

ものは考えようのポジティブ思考への転換

もともとネガティブ思考なので、「ものは考えよう」と、ポジティブ思考に転換することを心がけています。大きな障害を抱えても、それを脅威と捉えるか、挑戦と捉えるかどうかで、その後の人生は大きく変わってきます。また、何か行き詰った時、「What(何が問題か?)・Why(それはなぜか?)・How(どうする?)」といった問題解決の思考の枠組みを用いて、ノートにまとめています。さらに、このノートに思いついたアイデアをメモして、その実現方法を日々考えることにも役立っています。今では、ノートは15冊目になりました。

*1:「水準の高い看護を効率よく行うための技術と知識を深め、卓越した看護を実践できると認められた看護師」に対し、日本看護協会が認定するものです。急性・重症患者看護を含む13の認定分野があります。

*2: 医師が作成した手順書(指示が記載された文書)のなかで、研修を修了していれば医師の判断を待たずに看護師の判断で行うことのできる診療の補助のことです。21区分38行為が規定されています。

*3: 患者さんの最良の医療支援方法について、医師・看護師をはじめとする医療スタッフで話し合う会議です。

*4: [URL]http://kansai-ccc.jp/

★医療を支える三重大発ベンチャー企業

File. 38



新しい医工連携の形を創造

医学系研究科博士課程に在籍中に、何か産学連携の仕組みを作りたいという思いがありました。当時はまだ医工連携での産学連携はうまくいかないケースも多い時代でしたが、大学のシーズ(技術や人材、アイデアなど)を事業に活かしていける開発ができないかと考え、当時、医学系研究科の大学院生だった川中普晴先生(現 工学研究科准教授)と2人で、医用工学研究所を三重大学内に立ち上げました。

主に大学病院をはじめとする急性期病院に向けて、電子カルテや医事会計、その他様々な病院内のシステムのデータを一同に集め分析する医療データウェアハウスシステムを開発し販売しています。経年での比較や、他病院との比較を行うことで、病院の経営改善や研究・診療実績の活用、病院業務の効率化を図ることができるシステムです。今後、個々の病院が患者データを別々に管理する時代から、患者個人に健康情報を紐づけるパーソナルヘルスレコードや情報銀行が進む時代となる中で、病院の経営を支えるだけでなく、将来的には医療データの側面から病院や地域の医療を支えるインフラになりたいと思っています。

主に大学病院をはじめとする急性期病院に向けて、電子カルテや医事会計、その他様々な病院内のシステムのデータを一同に集め分析する医療データウェアハウスシステムを開発し販売しています。経年での比較や、他病院との比較を行うことで、病院の経営改善や研究・診療実績の活用、病院業務の効率化を図ることができるシステムです。今後、個々の病院が患者データを別々に管理する時代から、患者個人に健康情報を紐づけるパーソナルヘルスレコードや情報銀行が進む時代となる中で、病院の経営を支えるだけでなく、将来的には医療データの側面から病院や地域の医療を支えるインフラになりたいと思っています。

チューバ演奏と研究に没頭した学生時代

学生時代は三重大学管弦楽団でチューバを演奏していました。卒業後もOBとして管弦楽団の演奏会に出演しています。チューバは非常に大きな楽器で肺活量も必要になるのですが、以前肺活量を測定したら成人男性平均の約1.5倍の6.5リットルありました(笑)

工学部の研究室では、煙感知器の波形分析を行っていました。感知した煙の濃度を分析し、火事の煙かどうかを類推するという研究です。3年生からの編入ということもあり、三重大学での楽しい時間は、楽団でのチューバ演奏と研究であっという間に過ぎていきました。

能化を自覚し会社を導く

仏教の言葉で能化と所化という言葉があります。能化は人を導き指導する立場、所化は教えられる立場のことを示します。社長という立場である以上、能化であるという自覚を持ち、能化として恥ずかしくないように日々勉強し、行動に気をつけています。私の意思決定は、会社の意思決定になりますので慎重に行います。また、意思決定をするにあたっては、私たちでないとできないことは何なのか、私たちだからやれることは何なのかを常に考えています。

株式会社医用工学研究所
代表取締役

北岡
義国
Kitaoka, Yoshikuni

石川県生まれ。石川高専卒業後、三重大学工学部電気電子工学科に編入し、1997年卒業。民間企業を経て、2004年3月三重大学医学系研究科修士課程修了、博士課程在籍時の2004年12月に医用工学研究所を設立し、現在に至る。



医用工学研究所前にて
(三重県津市)

今も休日には
チューバの演奏を
しているよ!

車でドライブ
するのも好き
なんだって!

MESSAGE
学生へのメッセージ

新しいことにどんどん
チャレンジし、多くのことを吸収して、
所化から能化に成長してください!
そして、能化として社会に貢献
できるように頑張ってください!

★心と身体を健康を保つために、機能性食品素材の魅力を発信

File. 39



研究室生活で得たもの

学生時代は生物化学研究室(現 分子細胞生物学研究室、生物圏生命科学専攻)での研究室生活にどっぷり浸かっていました。遺伝子の複製について研究していたのですが、研究は

もちろん、一緒に研究する仲間との生活が本当に楽しく、学生生活での一番の思い出です。そのときの教授や先輩、同級生とは今でも連絡を取り合っており、人とのつながりもすごく濃くなったかなと思います。研究室での経験から研究職に就きたいという思いがあったので、研究員の人数が多く、とても自由な発想で研究を行っている研究開発型企業である太陽化学株式会社に入社しました。

食品を用いた栄養治療

入社後13年間は研究員として、「機能性食品素材」を研究開発していました。自分が開発した商品が店頭で並んでいるところを見つけたときはとても嬉しく、商品をたくさん買い込みました。(笑)

研究職では、研究に対する考え方や、データの読み方など、学生時代に学んだことがとても生かされました。その後、2回の育休を経て、現在は営業として働いています。半年前までは、病院や介護施設に向けて、鉄分不足や腸内環境の改善を「薬ではなく機能性食品で行う」という提案を行っていました。現在の部署では、最近の在宅介護や減薬の動きがあるので、より多くの方々に薬だけに頼ったケアではなく、機能性食品を用いた栄養治療により症状を改善していただけるように、一般の方向けに商品をご紹介します。自分たちが開発した商品を、利用者の方がどのように使用しているのか、現場の生の声を聞くことができるので、研究職とはまた違ったやりがいを感じています。

QOL*の向上に向けて

自分が研究開発に携わってきたのが、身体に何らかの良い影響を与える「機能性食品素材」でした。近年、寿命が延びていますが、長生きするだけでなく少しでも健康寿命が延びてほしい、生活の質を上げていきたいという思いがあります。生活の質を上げていくために、良い商品はあるのに、困っている人にはまだまだ認知されていないのが現状なので、良いものを困っている人の手に届くようにしたい、困っている人の生活を良くしたい、より良いものを作り出していきたいという思いで今の仕事に取り組んでいます。

*QOL (Quality of Life) …生活の質

太陽化学株式会社
メディケアグループ 通販チーム 副主任

南
千代子
Minami, Chiyoko

愛知県名古屋生まれ。2002年三重大学生物資源学部卒業、2004年大学院生物資源学研究所修士課程修了。2004年に太陽化学株式会社に入社し現職。



太陽化学株式会社にて
(三重県四日市市)

日本の
世界遺産を
巡るのが好きで、
屋久島や知床半島
にも行ったん
だって!

研究員
のときには、
研究成果が
認められて2度
表彰されたん
だって!

MESSAGE
学生へのメッセージ

学生時代は、やりたいことが
あったりやりたいと思った時に
やるべき!また、自分の興味のある
こと以外でも、チャンスがあれば
取り組んでいくと世界が
広がります。